

第1章

中学生の 学習に関する意識・実態

- 「学習に関する意識・実態調査」の分析より -



第1節 中学生の学習行動

1. 学校での学習の様子

①好きな教科・嫌いな教科

中学生の一番好きな教科は「体育」、次いで「美術」に人気が集まる。こうした好き嫌いは、男女で大きな違いがある。第2回調査で人気を回復した「理科」「数学」は、ふたたび「好き」と回答する割合が低下している。



あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

中学生は、学校での勉強をどのようにとらえているのだろうか。それぞれの教科等を「どのくらい好きか」「どのくらい理解しているか」「特にがんばって勉強したいものはどれか」の3点について尋ねてみた。なお、今回は、すでに移行措置によって先行実施されている「総合的な学習の時間」も選択肢に加えられている。

まず、中学生が一番好きな教科は、「体育」で67.0%に及び、他を引き離している（「とても好き」「まあ好き」の合計：表1-1-1）。以下、「美術」（49.3%）が2番目に支持され、「音楽」「理科」「技術・家庭」「国語」「社会」「英語」が僅差の40%台で続いている。極端に嫌われている教科等がない代わりに、圧倒的多数が「好き」という教科等もない。今回新たに導入された「総合的な学習の時間」は38.5%にとどまっており、「履修したことがない」中学生を除いて計算し直しても40%強にすぎない。「好き嫌い」という次元で考える限り、「総合的な学習の時間」

は学校での勉強に大きな変化をもたらしているとは言えない。

性別にみると、教科の好き嫌いには大きな男女差がみられる（同表）。男子が極端に好む教科等は「理科」（男女差＝19.5%）、「数学」（13.4%）、「体育」（11.9%）、「社会」（10.5%）、「技術・家庭」（10.3%）であり、女子は「音楽」（29.3%）、「美術」（14.7%）、「国語」（13.8%）を好む傾向がある。この教科の選好は、その後の進路選択パターンに反映されることになる。

第1回・第2回調査と比べて、いくつかが目立った変化がみられた（図1-1-1）。特に、第2回調査で10ポイント前後も率を伸ばした「理科」「数学」であるが、第3回調査では、いずれも6ポイントの減少となっている。また、「とても嫌い」「まあ嫌い」という中学生の割合は、各教科ともほとんど変化を示さなかったが、唯一「社会」はこの10余年で8ポイント以上増加し、「嫌い」と回答する生徒が増えている（基礎集計表参照）。

表1 - 1 - 1 好きな教科(性別)

(%)

	全体(2503)	男子(1307)		女子(1184)
国語	43.2	36.7	≪	50.5
社会	42.8	47.7	≫	37.2
数学	39.4	45.8	≫	32.4
理科	46.8	56.1	≫	36.6
英語	42.8	40.5		45.2
音楽	46.9	32.9	≪	62.2
美術	49.3	42.3	≪	57.0
体育	67.0	72.7	≫	60.8
技術・家庭	45.0	50.0	≫	39.7
総合的な学習の時間	38.5	39.2		37.6

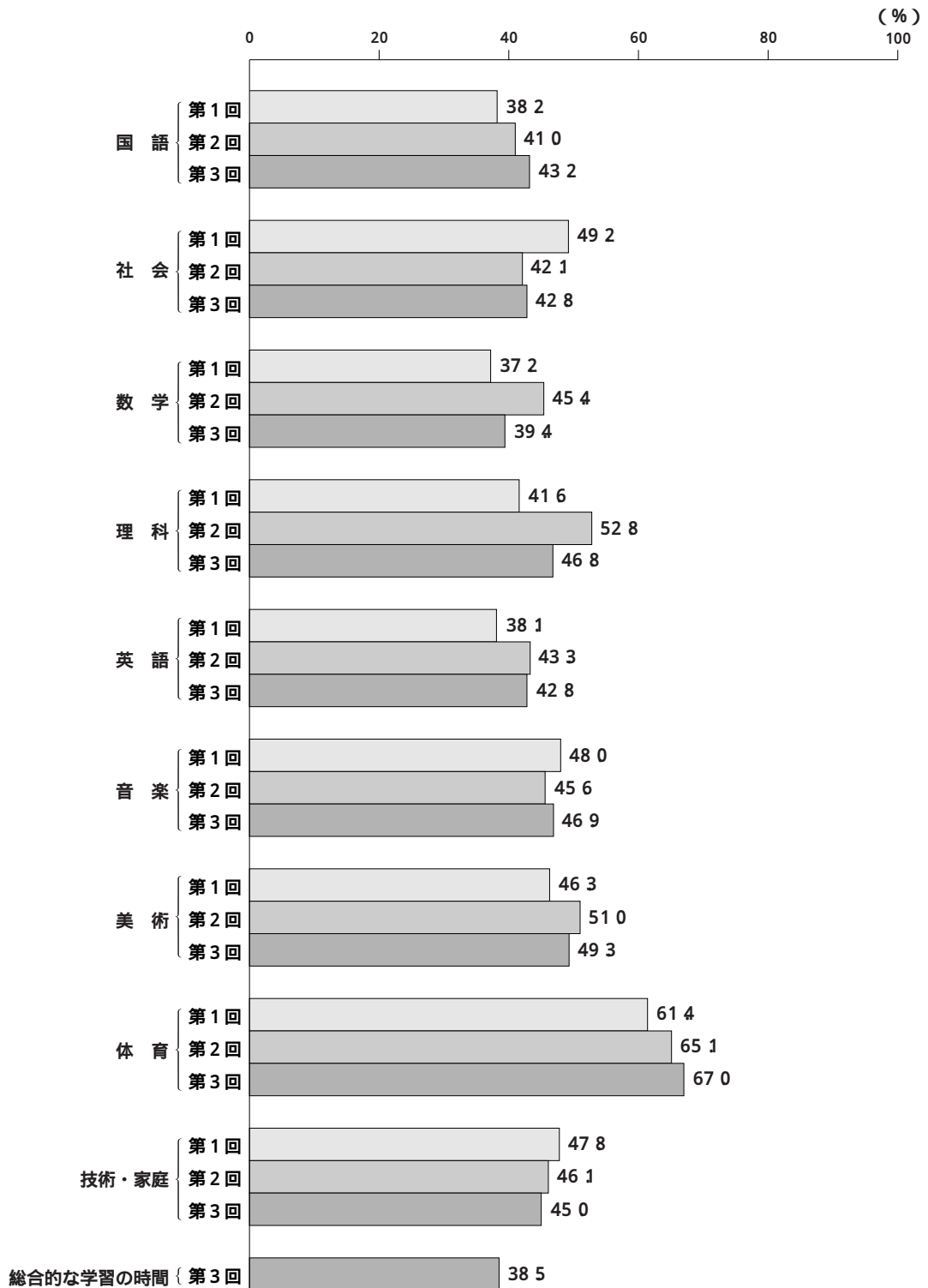
注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。

注2) 「総合的な学習の時間」にだけ、選択項目の中に「履修したことがない(5.4%)が含まれる。

注3) ≪ ≫は男女で10%以上差があるもの。

注4) ()内はサンプル数。

図1-1-1 好きな教科(時系列)



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。

注2) サンプル数は第1回2544人、第2回2755人、第3回2503人。

②授業の理解度

5教科の授業の理解度では、「数学」と「国語」を比較的高く自己評価している。「国語」「社会」「数学」は第2回調査よりも上昇し、中学生の意識の中では、理解度は低下していないようだ。



学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。

中学生は、「5教科」の授業をどの程度理解しているのか。彼らの自己評価をもとに、およその傾向を探ってみた。「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」を加えた割合でみると、「数学」(53.5%)と「国語」(53.4%)が比較的高いが、他の3教科も4割台に達している。性別による違いには、前項の教科等の「好き嫌い」がそのまま投影

された形となっている(表1-1-2)。

時系列でみると、一貫して低下している教科はなく、特に「国語」「社会」「数学」では第2回調査よりもいづらか増えている(同表)。また、「ほとんどわかっていない」層が増加傾向にあるとはいえ(基礎集計表参照)、少なくとも中学生の意識の中では理解度は低下していないといってよい。

表1-1-2 授業の理解度(時系列・性別)

(%)

	第1回(2544)	第2回(2755)	第3回(2503)	第3回	
				男子(1307)	女子(1184)
国語	45.8	47.0	53.4	49.8 <	57.4
社会	43.3	38.5	43.3	49.8 >>	36.0
数学	46.4	52.4	53.5	58.2 >	48.3
理科	41.1	48.9	46.5	54.9 >>	37.1
英語	39.3	46.0	45.7	44.5	47.0

注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。

注2) < >>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

③がんばって勉強したい教科

中学生が一番がんばって勉強したいのは「英語」で、次いで「数学」である。「総合的な学習の時間」は「がんばって勉強する」ものではないという構えがみられる。「体育」をがんばって勉強したいという中学生が大幅に増え、「音楽」「美術」も伸びている。

Q

あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。特にがんばりたいと思うものを3つまで選んでください。

中学生は、どんな教科等を「がんばって勉強したい」と考えているのだろうか。「特にがんばりたいと思うもの」を3つあげてもらった。

もっとも多かったのは、「英語」(58.7%)で、これに「数学」(55.1%)が続く。1割ほど差をあけられて「社会」(44.5%)があがっており、3割を超えるのはこの3教科だけだった。以下、「体育」(29.6%)、「理科」(29.0%)、「国語」(27.1%)が比較的多い。これに対して、「技術・家庭」(8.5%)や「総合的な学習の時間」(9.8%)をあげる者はきわめて少ない。これらは、「がんばって勉強する」ような教科・時間としてはとらえられていないのかもしれない(表1-1-3)。

性別で見ると、女子が「音楽」「数学」「英語」、男子が「国語」「理科」「体育」をあげる傾向が強いことがわかる。

時系列変化については、第3回調査では「総合的な学習の時間」が新たに選択肢に加えられたので単純な比較はできない。ただし、第1回調査の結果と比べると、これまで「がんばって勉強したい」と思われていた教科(「英語」「国語」「数学」「理科」)で数値が低下し、逆にそうでなかった教科(「体育」「音楽」「美術」)で伸びが著しいという大まかな傾向はみられる。なかでも、「体育」を「がんばって勉強したい」とする中学生の割合はこの10余年で2倍に達している。

表1-1-3 がんばって勉強したい教科(時系列・性別)

(%)

	第1回(2544)	第2回(2755)	第3回(2503)	第3回	
				男子(1307)	女子(1184)
国語	37.9	35.9	27.1	31.4 >	22.3
社会	44.3	46.5	44.5	43.5	45.8
数学	63.6	61.0	55.1	51.7 <	58.8
理科	33.1	34.7	29.0	31.7 >	26.1
英語	72.0	61.6	58.7	56.7	61.1
音楽	9.6	11.8	14.3	10.8 <	18.1
美術	10.3	13.9	14.1	13.0	15.3
体育	14.5	19.2	29.6	32.1 >	26.8
技術・家庭	7.1	8.4	8.5	9.9	6.9
総合的な学習の時間	—	—	9.8	9.9	9.5

注1) 第1回・第2回調査は9科目中3つまでを選択、第3回調査は10科目中3つまで選択。

注2) —は該当項目なし。

注3) < >は男女で5%以上差があるもの。

注4) ()内はサンプル数。

④授業の受け方

板書をきちんとノートに書きつけることは広く習慣化されている。授業の受け方がより積極的になった第2回調査の特徴を引き継いでいる。ただし、授業の進度や難易度に違和感を覚える女子が依然として多い。



あなたの授業中の様子についてうかがいます。

中学生の授業の受け方やテストに対する構えについて、13項目にわたって尋ねてみた。

「よくある」「時々ある」を合計した割合がもっとも多かったのは、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」で、ほとんど全員が該当している。「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」ことも過半数の中学生にあてはまり、特に女子にこの傾向が強い（女子64.1%に対して男子44.1%：表1-1-4）。女子の場合には、ノートをとる習慣が男子よりも身につけているようである。

また、「本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う」や「テストで間違えるとくやしいと思う」という意識も9割程度の中学生にとってありふれたものとなっている。「正答が誤答か」ということへのこだわり比べて、「テストで間違えた問題をやり直す」という行動は比較的まれであり、57.8%が該当するにすぎない。自らの弱点を克服し、さらに次のステップにつなげていくことはあまり実行されていない。学ぶ内容そのものへのこだわりが比較的薄くなっているようである。

さらに、「授業の内容が難しいと思う」（63.4%）も全体の3分の2近くに達しており、「授業の内容が簡単すぎると思う」（19.7%）の3倍以上となっている。「近くの人とおしゃべりをする」（61.0%）や「ぼーっと他のことを考えている」（61.0%）という回答が多いこともこうした授業の難しさとは無関係ではない。「授業中にいぬわりをする」（30.5%）や「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」（28.8%）もおよそ3割が該当する一方で、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」という中学生は28.3%となっている。

第2回調査と比べると大きな変化はみられず、授業の受け方がより積極的になった第2回調査の傾向をそのまま引き継いだ形となっている（図1-1-2）。また、「授業の内容が難しいと思う」に「よくある」と回答した割合が4.6ポイント増加しているが（基礎集計表参照）特に女子の中に授業の進度や難易度に違和感を覚える層が依然として多いことによると考えられる。女子の「理数離れ」が根強いことが背景にあるようである。

表1-1-4 授業の受け方(性別)

(%)

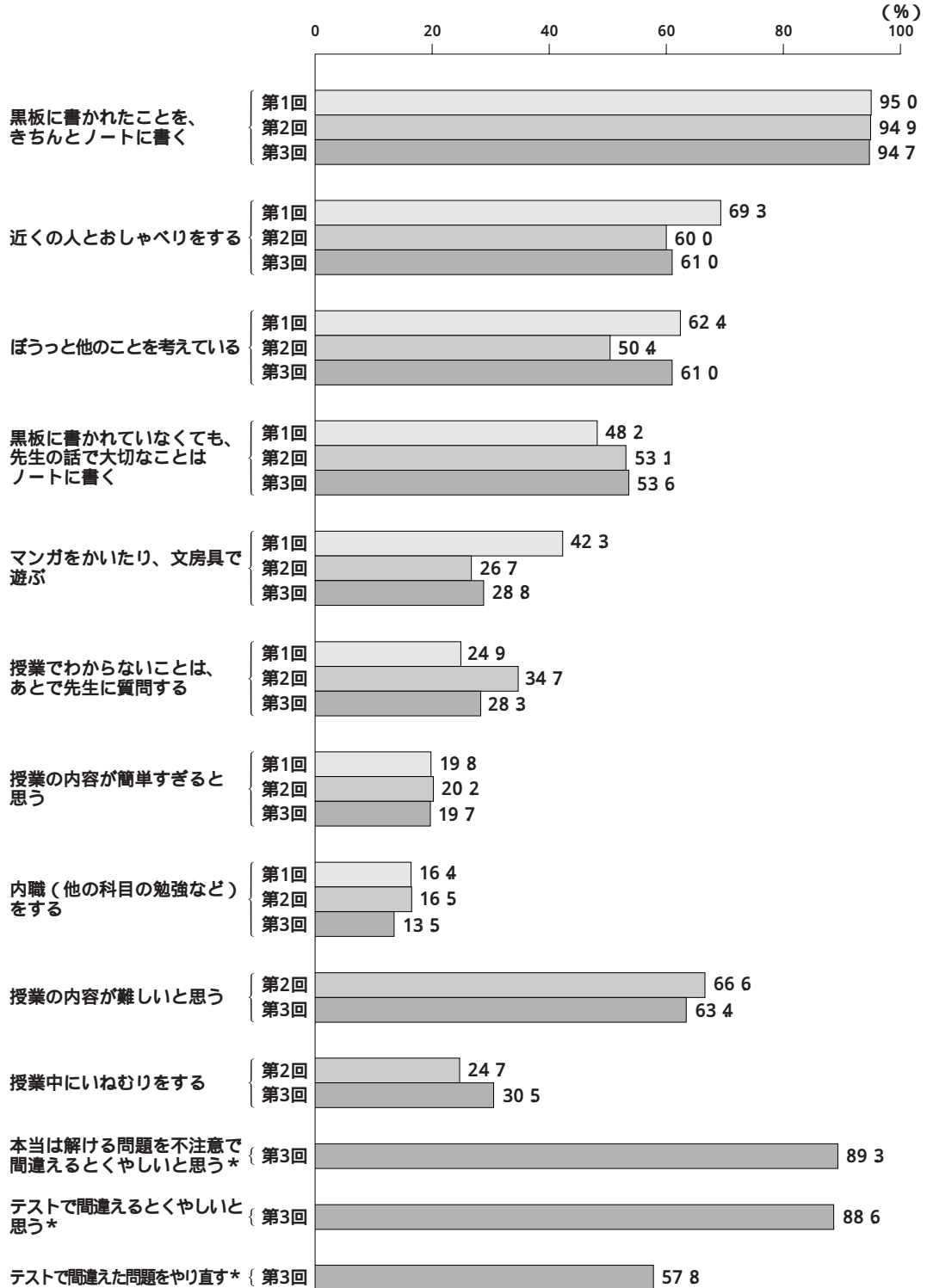
	全体(2503)	男子(1307)	女子(1184)
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	94.7	92.6	97.0
近くの人とおしゃべりをする	61.0	62.0	59.9
ぼうっと他のことを考えている	61.0	56.4	< 66.3
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	53.6	44.1	≪ 64.1
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	28.8	27.9	29.6
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	28.3	28.0	28.4
授業の内容が簡単すぎると思う	19.7	25.3	≫ 13.4
内職(他の科目の勉強など)をする	13.5	14.1	13.0
授業の内容が難しいと思う	63.4	57.4	≪ 70.0
授業中にいねむりをする	30.5	30.6	30.3
本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う	89.3	87.8	90.8
テストで間違えるとくやしいと思う	88.6	86.8	90.4
テストで間違えた問題をやり直す	57.8	54.3	< 61.7

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ≪ ≫は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

図1-1-2 授業の受け方(時系列)



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) *は第1回に該当項目なし。*は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) サンプル数は第1回2544人、第2回2755人、第3回2503人。

⑤好きな学校の勉強方法

新しい授業スタイルがかなり普及している。しかし、多くの中学生は「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する」など主体的にじっくりと調べ発信していく勉強方法を好んではいない。



あなたは、次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか。

ここでは、学校での勉強方法を10項目設定し、それぞれについて「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」「やっていない」のいずれかを選択してもらった。

まず、「やっていない」という回答が多かったものから順にあげると「パソコンを使ってする勉強」(9.4%)、「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」(9.3%)、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」(6.4%)、「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」(4.1%)となる(図1-1-3)。これらは比較的新しいスタイルの勉強方法であるが、「やっていない」は、いずれも全体の1割未満にとどまっており、これまでよりも多様なスタイルの授業が普及していることがわかる。

それでは、それぞれの勉強方法の中で、中学生が好んでいるのはどのような方法なのか。「とても好き」と「好き」の割合の合計がも

っとも高いのは、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」(75.0%)で、わずかの差で「友だちと話し合いながら進めていく授業」(74.4%)と「パソコンを使ってする勉強」(74.3%)と「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」(70.7%)が続いている。「グループで何かを考えたり調べたりする授業」(67.4%)も比較的人気が高い。

これに対して、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」(34.5%)や「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」(41.5%)はあまり好まれない。質問内容からは具体的な中身が見えてこないが、全般的にはどちらかといえば受動的な方法か退屈で反復的な授業の日常から解放されるような勉強方法が好まれる。自ら主体的にじっくりと調べ、工夫しながら発信していくことは好まれないようである。

図1-1-3 好きな学校の勉強方法

